

2011年3月29日

経営近況報告会

MediBic

株式会社メディビックグループ
証券コード2369 東証マザーズ

1. 会社概要

資本金	21億6,633万円(2011年2月末現在)
設立	2000年2月17日
本社	〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町27-2 第二シバビル3F
代表取締役	橋本 康弘
公開市場	東証マザーズ (証券コード2369)
主な事業内容	バイオマーカー創薬支援事業、テーラーメイド健康管理支援事業、創薬事業

個人に適した

テーラーメイド医療の

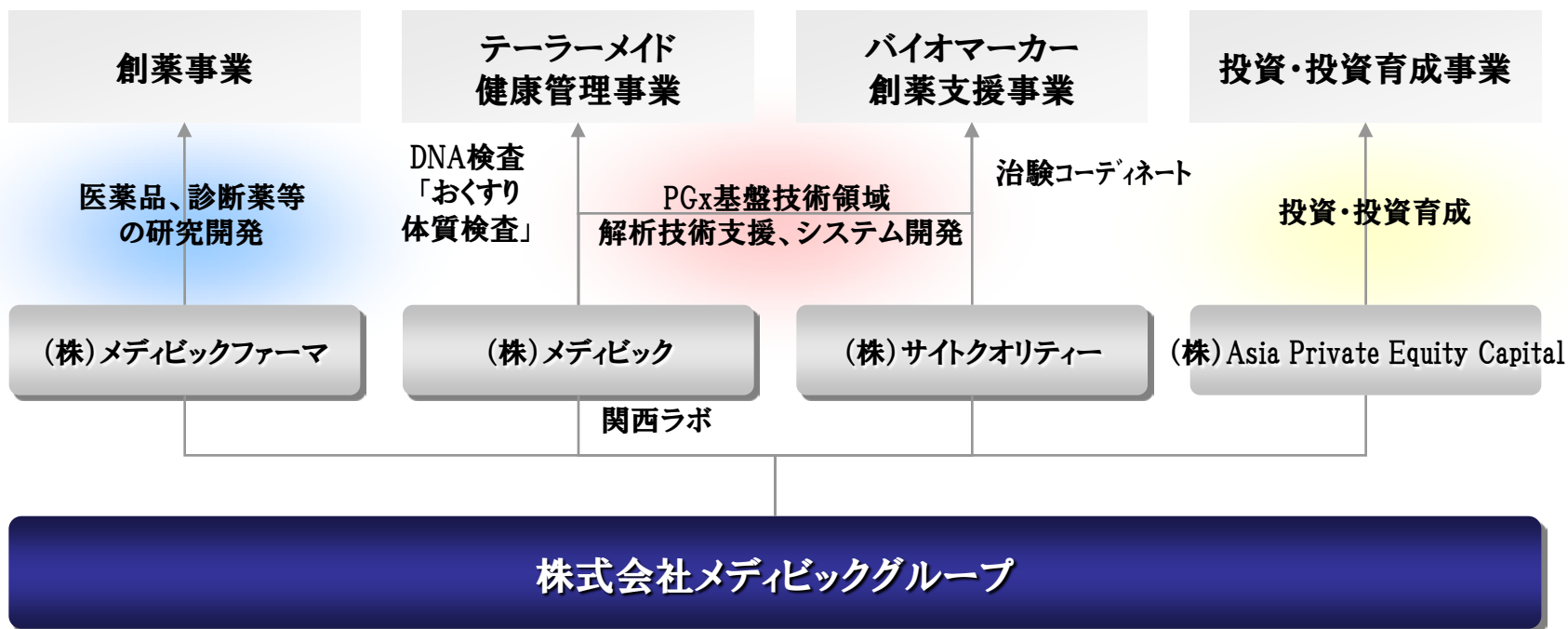
実現を目指す

個人の体質に合わせた薬の開発 ⇒ テーラーメイド創薬

体質に合わせた医療及び健康管理

⇒ テーラーメイド健康管理

1. 会社概要 《グループ構成》



1. 株式関連データ

株価	8,350円(2011年2月28日終値)
時価総額	1,678百万円 発行済株式総数:201,042株(2011年2月28日現在)
株主優待	「おくすり体質検査」サービス ※いずれかを選択 ①提携クリニックご提供価格から2,100円を割引 ②検査キットを15,750円でご提供
決算期	12月

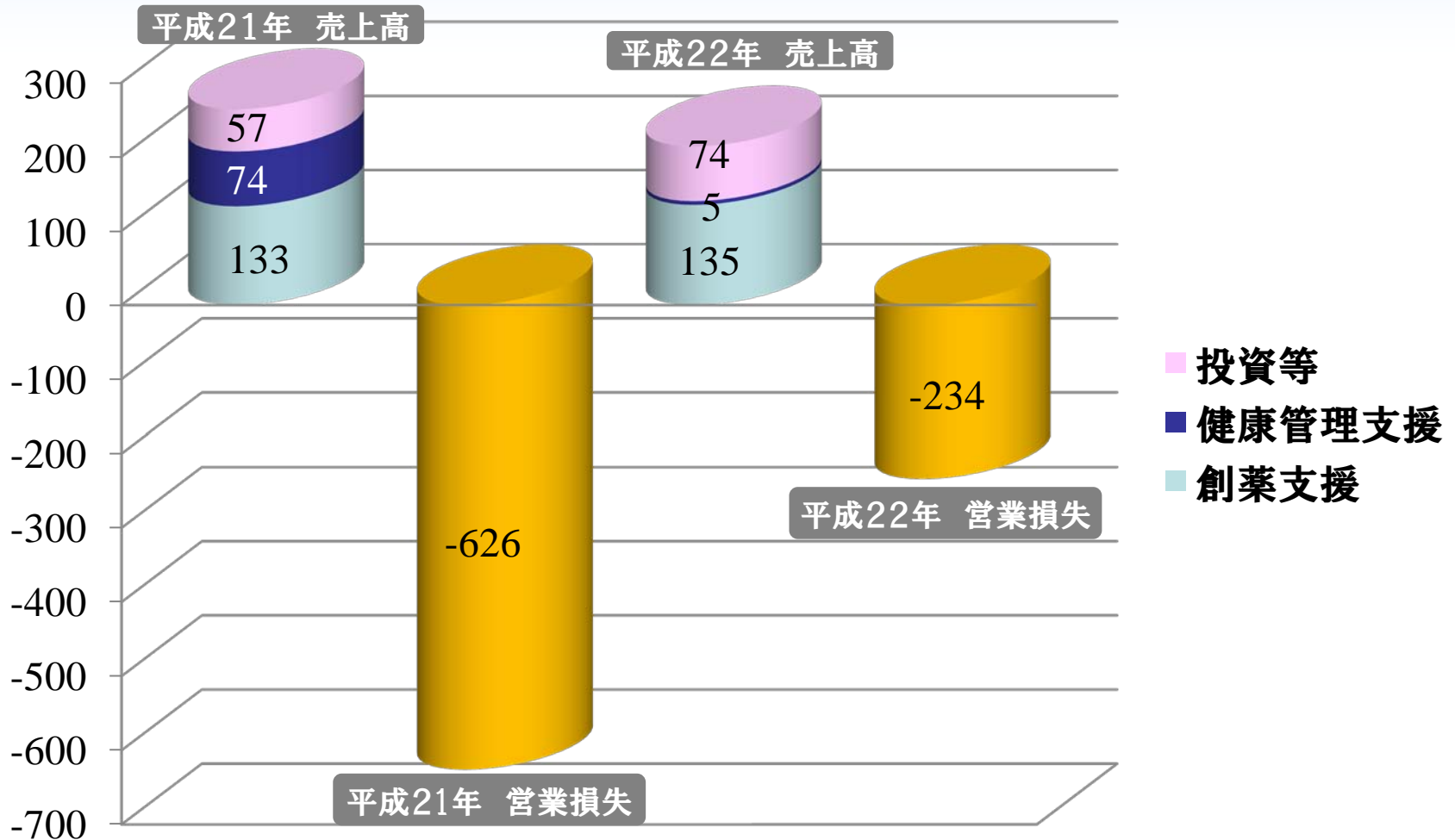
2. 平成22年12月期 通期連結業績(1)

主要経営指標(連結)

(単位:千円)

	平成21年12月期	平成22年12月期	平成23年通期 (見込み)	前年同期比
売上高	266,239	214,758	200,000	△51,481
経常利益	△609,533	△257,300	△192,000	352,233
四半期純利益	△615,542	△263,295	△193,000	352,247
純資産	396,550	255,229	—	△141,321
総資産	475,796	334,165	—	△141,631
1株当たり純利益	△3,492円60銭	△1,465円68銭	△1,012円90銭	2,026円92銭

2. 平成22年12月期通期連結業績(1)



2. 平成22年12月期通期連結業績(2)

- 《バイオマーカー創薬支援事業》
PG_x試験(新薬開発)支援サービスが堅調に推移、
営業利益を確保。
- 《テーラーメイド健康管理支援事業》
売上高は縮小したが、コスト削減が進み利益面は大幅に
改善。新たに「おくすり体質検査」サービス事業を開始し、今
後の収益の柱に。
- 《投資事業》
営業投資有価証券売却で資金化を進め売上高増加。
減損、評価損一巡し、利益面も大幅に改善。

2. 資金調達状況

方法	新株予約権の発行		
発行日	平成22年11月1日		
発行数 行使価格 行使期間	260個(26,000株) 8,325円 平成22年11月1日～平成24年10月31日(2年間)		
調達予定額	217百万円		
〔既調達額〕	171百万円(20,500株)		
発行済株式数 の推移	2011/11 180,542株	⇒ 2011/2末 201,042株	⇒ 行使完了 206,542株

2. 「継続企業の前提に関する注記」解消

◆平成22年12月期

- ・第3回新株予約権、ストックオプション行使
42百万円調達
- ・営業投資有価証券売却
68百万円資金化
- ・第4回新株予約権行使（11月～12月）
83百万円調達

◆平成23年2月末時点

- ・第4回新株予約権行使（1月～2月）
87百万円調達
- ・資金支援に関する覚書締結
80百万円融資枠

- 保有有価証券の売却を、マーケットの変化、売却実現性、収益性等を総合的に判断し、個別銘柄を選定、売却。

【売却数】
6銘柄

【株式売却による売上高】
68百万円

今期は

海外新薬開発ベンチャー大型案件 売却交渉進める

4. 創薬事業 《抗がん剤 グルフォスフェミド開発》

■欧米での開発再開（臨床開発第三相～最終試験段階） メディビックはアジアの権利

- ・開発を他の米国バイオベンチャーが権利取得
Eleison Pharmaceuticals , Inc (USA)
- ・米国食品医薬品局 (FDA) との開発の進め方 [SPA (Special Protocol Assessment)] 合意 試験開始へ
- ・第三相試験 2011開始 2012終了予定
- ・米国国立衛生研究所より、「U.S. Qualifying Discovery Project Program」賞及び研究開発費が贈呈される

4. 創薬事業《抗がん剤 グルフォスファミド開発》

●米国ニューヨーク・タイムズ、中国日報

PET診断原理を活用した有望な抗ガン剤として紹介。

『以前の試験結果解析により、投与者の血糖値を考慮すると有効性が見られる可能性』との意見も記載。

●EU圏内でのオーファンドラッグ（希少疾病用医薬品）申請

欧州医薬品庁（EMA）が、有望候補薬剤として欧州委員会に対し推奨する意見を公表。

●国内、アジア圏における開発、ライセンス交渉再開

中国・韓国企業からライセンスの打診、現在検討中

中国・韓国では、米国FDA承認後は比較的短期間で承認可能

5. テーラーメイド新薬開発支援事業 <PGx事業>

■PGx事業展開の指標 保管検体数が急増



2011年2月 米国の食品医薬品局 (FDA) よりPGx試験に関する新ガイダンス発表

検体保管実施プロジェクト数や保管検体数の増加期待

PGxトータルソリューション

インフラ整備

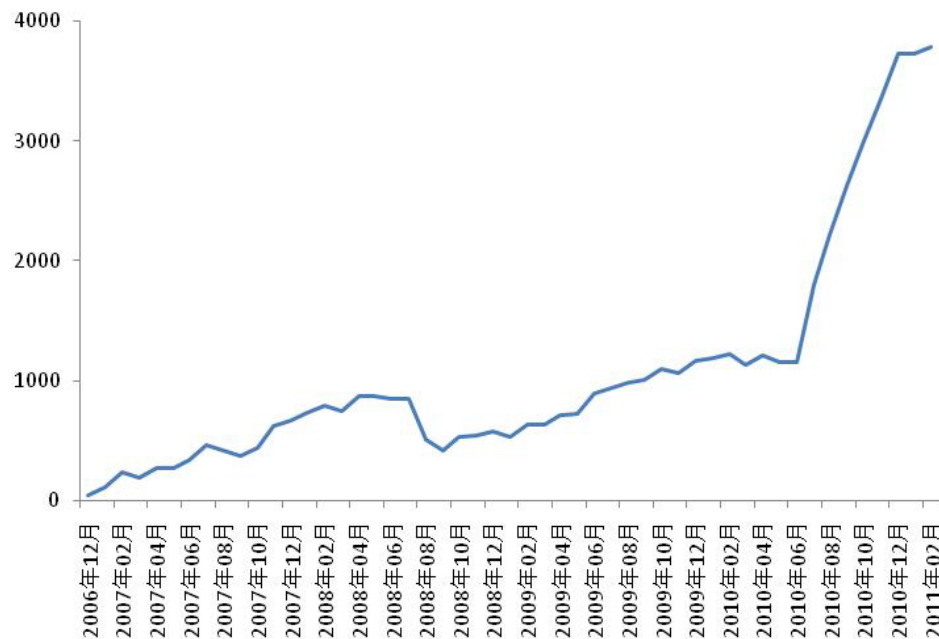
実施サポート

検体保管

ウェット業務受託

データ解析

保管検体数



テーラーメイド新薬開発 (PGx) に必須システム

- 検体保管状況・検体所在などの情報管理
- 臨床データ・検査結果に連結可能
- 個人情報ガイドライン順守匿名化システム



国内で唯一利用されている検体管理システム

製薬企業や国立研究機関などからの受注増加

6. テーラーメイド健康管理事業

『おくすり体質検査』で体質にあった薬を選ぶ目安

検査番号		検査結果			
被験者氏名			A	B	C
被験者生年月日			D	E	F

*被験者氏名、被験者生年月日は医療施設もしくはお申込者ご自身でご記入ください。

検査結果の見方

平均タイプ

おくすりを代謝する能力が平均的なタイプ。(一般的におくすりの投与量はこのタイプを基準として決められています)

効き過ぎタイプ

平均的なタイプと比べて、おくすりを代謝する能力が低いタイプ。

効き過ぎ注意タイプ

平均的なタイプと比べて、おくすりを代謝する能力がかなり低い、もしくは代謝できないタイプ。

日本人における割合(推定)

「平均タイプ」(緑)「効き過ぎタイプ」(黄色)「効き過ぎ注意タイプ」(ピンク)のそれぞれの日本人における割合の推定値をおくすりのグループごとに示しています。

検査結果の活用法

「効き過ぎタイプ」「効き過ぎ注意タイプ」の方はその判定がでたグループのおくすりを飲む際、効き過ぎてしまう場合があります。特に大量のおくすりを使う場合が多い救急時や、慢性疾患などで長期期間おくすりを飲むときは、注意が必要です。事前におくすり体質についてお医者様に相談しましょう。

「おくすり体質検査解説書」もあわせてよくお読みいただき、ぜひご利用ください。

おくすりのグループ	検査結果	日本人における割合(推定)	気をつけたいおくすり
A		<p style="font-size: x-small;">CYP1A2*1C</p>	CYP1A2 で代謝されるおくすり ・カフェイン
B		<p style="font-size: x-small;">CYP2C9*3</p>	CYP2C9 で代謝されるおくすり ・ワルファリン(血液をサラサラにする) ・フェニトイン(抗てんかん薬) ・トルブタミド(糖尿病治療薬) ・ロサルタン(高血圧)
C		<p style="font-size: x-small;">CYP2C19*2</p>	CYP2C19 で代謝されるおくすり ・オメプラゾール ・ランソプラゾール ・ジアゼパム ・ラベプラゾール
D		<p style="font-size: x-small;">CYP2C19*3</p>	CYP2D6 で代謝されるおくすり ・メトプロロール ・プロプラロール ・コデイン ・アトモキセチン

*この検査は、CYP2D6の複数の遺伝子タイプのうち、酵素の持つ代謝能力に関する重要な遺伝子タイプを判定しています。

*CYP2D6については、CYP2D6の複数の遺伝子タイプのうち、代表的な遺伝子タイプ(CYP2D6*4, CYP2D6*10, CYP2D6*14 など)に関する100C>Tを検査しています。

カフェイン

カフェインには眠気や疲労を和らげ、運動機能を高めるなどの効果がありますが、大量に摂取すると不眠や興奮作用などが起こります。Aグループの検査結果が「効き過ぎタイプ」「効き過ぎ注意タイプ」の方はカフェインの代謝に時間がかかるので、カフェインが体内に長くとどまる可能性があります。カフェインは少量ですが風邪にも含まれます。

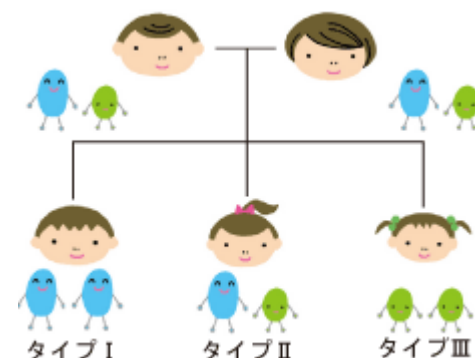
6. おくすり体質検査 『遺伝子検査の倫理的な問題』

遺伝学的検査

その個体が生来的に保有する遺伝学的情報を明らかにする検査

【遺伝学的検査の特徴】

- ① 一生変化しない
- ② 血縁者間で一部情報を共有している
- ③ 血縁関係にある親族の遺伝型や表現型が比較的正確な確率で予測できること



遺伝情報の特性に基づき倫理的に配慮する必要がある

6. おくすり体質検査 新ガイドライン『ゲノム薬理学遺伝子検査』

【特徴】

遺伝子検査の結果は一生変わらず、血縁関係者と情報を共有するが、表現型が不可避ではない、表現型の予測力が弱い

ある薬物による重篤な副作用の原因が遺伝子にあると確定し、親族も同様の可能性があると判定されても、親族はその特定の薬物の服用を避けることができるし、実際にその薬物を一生の間に服用しなければならない場合はそれほど多くは無い。以上の点から、**ゲノム薬理学情報の倫理的問題の程度は単一遺伝子疾患の場合より相当に低いと考えられる。**

(ゲノム薬理学を適用する臨床研究と検査に関するガイドライン 日本人類遺伝学会 2010年12月16日)

ゲノム薬理学検査に含まれる薬理遺伝学検査は、診療の場においては**通常の診療情報と同様に扱うことができる。**

(医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン 日本医学会 2011年2月)

ゲノム薬理学検査に該当する「おくすり体質検査」は遺伝子検査であるが、臨床検査と同じ取扱が可能



ガイドライン改正によるビジネスチャンスの拡大

6. おくすり体質検査 進捗

2010年 9月 モニター検査開始

2010年 12月 「ゲノム薬理学を適用する臨床研究と検査に関するガイドライン」公表
関西・関東の4件の提携クリニックでテスト販売スタート
弊社事業説明会において検査販売

2011年 2月 「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」公表
薬剤師向けにサービス説明・検査販売を行う

2011年 3月 調剤薬局での導入を目指し、現在大手調剤薬局チェーン等と
事業展開について検討中

検査数 500件以上

2011年 5月 「おくすり体質検査」検査キット販売予定
⇒検査の簡易化⇒検査数の増加

2011年 9月 「おくすり体質検査」専用採取用綿棒完成予定⇒検査の差別化
(特許取得予定)

事業進捗 要点

- 資金調達
- 「継続企業の前提に関する注記」解消
- 赤字額の大幅縮小
- 抗がん剤開発の復活（欧米）
- 『お薬体質検査』 事業
新ガイドラインによるビジネスチャンスの拡大
- バイオマーカー創薬支援事業
営業利益を確保

MediBic

株式会社メディビックグループ

www.medibic.com

当資料取扱い注意点

本資料に記載されている、当社または当社グループに関連する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、事業の認識、評価などといった、将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づき、本資料の日付時点における予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・予想数値を算定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・予想を行うために不可欠となる一定の前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。

また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に係わらず、常に当社が将来の見直しを見直すとは限りません。これらの記述ないし事実または前提(仮定)が、客観的には不正確であったり将来実現しないという可能性の原因となりうるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。